

現地支援委員会

ニュースレター

「第35号」

2018年9月19日



from 東北

全国諸教会の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地方地震の被害を覚えてお祈りいたします。今号では、西南学院大学ボランティアチームとの活動、亘理、緑ヶ丘仮設住宅の近況報告をお届けします。

2018年 西南学院大学ボランティア in 東北

「西南学院大学ボランティアチーム活動報告」

「ありがとう」笑い文字で書かれた手作りカード。西南学院の学生らが手渡した瞬間、小槌第4仮設住宅集会所「エコハウス」(大槌町)でのお茶っこに参加した方がたのお顔が一斉にパッと和みました。現在、大槌町では未だ約800名の方がたが仮の暮らしを続けておられます。今年仮設団地は2箇所だけ残される計画でしたが復興事業の遅れなどで見直され、7箇所は残されることになりました。法律では2年間の仮設住宅入居期間も9年間迄の延長が決まりました。旧役場を震災遺構として残すか否かが争点になっていましたが、今年3月、僅差で取り壊しが決定しました。



震災以降、延べ449名もの学生らが30回以上に亘って繋いできた西南学院大学ボランティアチームとの訪問活動。青森岩手チーム・宮城チームの活動先の仮設住宅入居者がすべて災害復興住宅や他の場所へ移られたことを機に一区切りしたことで、これまでの感謝が現地に伝えられ、諸教会から届けられたお菓子や薔薇の苗が贈られました。耐用年数2年のプレハブ式仮設住宅での生活は7年以上に及びました。引越しの際、壁際にあった家財道具をどかすと裏面はカビだらけ…。何度も、何度も、延期された引越し。転居先ではほとんどの家財は使用できないとのこと。「次は10月？」との問いかけに「キュッ」と胸が締められました。次回の予定はないことを知るとNさんは「これまで(学生たちの訪問を)生きがいにしてきたのに…」と吐露されました。今回午後からの訪問を前に午前中から待っていてくださった10名の皆さまは活動後、一列に並ばれ、深々と頭をさげて感謝され、これまでの交流と支援に涙を流して喜んでおられました。夕刻、沿岸部にかかった虹が印象的でした。

また、宮古市田老地区の「たろう観光ホテル」で語り部Sさんの話を聞

き、防災学習をしました。海岸にはそびえ立つコンクリートの防潮堤が完成。「まるで刑務所の中にいるようだ」との現地の声。復興住宅へ移って外に出なくなったお父さん。散歩にでも行けば？との家族の勧めにも閉口。外に出ると震災前はここに何があった。あそこには・・・があった。復興の名の下、まるで別世界のように様変わりした町を見ると寂しくなるので外出したくないのだそうです。変わらない海も今は見えなくなりました。私たちは宮古、大槌町での活動を終え、沿岸部を通り東北を南下しました。路線道は変わり、各地で嵩上げがなされ、南三陸町では10mも嵩上げされており、防災庁舎を見下ろすにまでなっていました。気仙沼第一聖書バプテスト教会を訪問して嶺岸牧師、三陸新報記者三浦氏から震災当時の出来事を聞かせていただきました。その後、石巻市に入って大川小学校を視察。牡鹿半島の牧浜集会所に向かいました。豊島区長さんとの交流会、翌日は浜での作業とお茶っこチームに分かれて活動をしました。お茶っこには牧浜災害復興住宅より6名が参加。午後は荻浜で江刺区長、月浦にて相澤区長からそれぞれお話を聞きました。日曜日には南光台教会、仙台教会にそれぞれ分かれてともに礼拝し、午後は仙台市荒浜地区の旧荒浜小学校を視察、その後名取市「閉上の記憶」を訪問して語り部Tさんのご体験を聞きました。胸が潰れるようなご遺族の痛み一同涙が止まりませんでした。決してなかったことにはできない。伝え続けなければならない…。風化の危機感からの叫びがこだましました。Tさんは自分に言い聞かせるように告げます。「記憶に支配されるのではなく、記憶を支配するのだ」と。諸教会によるこれまでのご支援とお祈りに心より感謝いたします。

(南光台教会 田中信矢)〈サンクスマイル西南チーム9名、引率者3名、南光台教会2名、盛岡教会2名、仙台教会3名、大富教会2名、長命ヶ丘教会1名、計23名〉



小槌第4仮設エコハウスにて



気仙沼第一聖書バプテスト教会にて



牧浜 豊島区長と牡蠣漁作業



牧浜 集会所にてお茶っこ



荻浜 江刺区長と

福島 緑ヶ丘仮設住宅支援

2018年3月10日、緑ヶ丘東仮設住宅にお訪ねいたしました。この日は、東日本大震災から7年を迎え、追悼集会を行いました。2011年8月に初めてバスタオルや石鹸など日常生活用品を車いすばいに積み込んでお伺いしたあの日から、毎月一度お茶会をさせていただき、はや7年。この緑ヶ丘東7丁目仮設、福島第一原発から50キロの富岡町から避難してこられた200世帯400人の方々が着の身着のまま避難所を転々としながら、やっとこの場所に落ち着かれたのでした。毎回毎回私たちがお訪ねすると笑顔いっぱいでお迎えくださり、お庭のお花の苗や種を分けてくださったので、教会の花壇が色とりどりになりました。

2018年3月10日の追悼集会を最後に緑ヶ丘東7丁目仮設住宅は、ボランティア受け入れが終了しました。10月に最後の方たちが仮設を出て、新しい住まいに移られます。ここで出会った方々は、いわき、新地、富岡、千葉、東京など、本当に広範囲に新しい住まいを求めて分かれていかれました。どんなに不条理の中であっても生きる道を選び取り、忍耐を育みながら今を作り出していられました。

全国諸教会の皆さんからのお祈りと、ご支援を心から感謝いたします。どれほど助けられ、励まされたことか。協力伝道の恵みを実感させていただきました。(郡山コスモス通り教会 金子千嘉世)



仮設集会所にて(リフレッシュ体操)

宮城 亘理支援

「あの日のことを忘れてはいけなんでしょうか…」震災から7年経った2018年3月に亘理を訪問したときに、亘理の方がつぶやいた言葉です。忘れてはいけない、忘れられない。でも、忘れたい…。そのような痛みや疲れを抱きつつ新しい生活を始めようとしている方がおられます。あの震災をなかったことにしてはいけませんし、失われた命や人生、町、そして今痛みの中で生きようとしている人々を忘れてはいけません。しかし私たちは、主イエスこそがあなたを忘れないで寄り添い続けて下さっているということを大切に伝えていきたいと願っています。

(仙台長命ヶ丘教会 金丸真)



亘理のいちごは今年も無事、収穫できました

花の日の翌日、お花を持って訪問しました。